



海のゆりかご通信

No. 31 Jun 2012

イベント レポート



名護屋地区藻場保全活動組織

イベントレポート・・・名護屋地区藻場保全活動組織
なごさのレシピ・・・・・・・・・・ハバ入りドーナツ
ホットニュース・・・・・・・・・・食害魚対策情報
おしらせ・・・・・・・・・・「ひとつみ.jp」をリニューアル

* * * * *

4月の下旬、大分県佐伯市名護屋(なごや)の海で、漁師と小学生による藻場の保全活動が行われた。漁師のグループ名は、「名護屋地区藻場保全活動組織」、潜水漁業を営む漁師7名によるグループだ。潜水漁業とは、その名のとおり沿岸の海に潜り、アワビやサザエ、海藻類を獲る漁業のこと。彼らは海を外からも中からも見ているまさに“海のプロフェッショナル”。その漁師たちと一緒に保全活動に取り組んだのが、名護屋小学校の1年から六年までの全校生徒の39名。この取り組みも今年で4年目。名護屋の子供達の恒例行事になっている。



イベントは2日間にわたって開催された。初日は名護屋小学校の体育館で漁師のグループによる活動報告、藻場にまつわるクイズ大会、勉強会をして、最後に児童の皆さんがオープンスポアバッグ(海藻をとりつけて海に沈めるための布地)に海藻や魚の絵、標語などを思い思いに描いた。

活動報告では、リーダーの戸高留治さんが、地元の

海のこと、これまでの活動のことを児童の皆さんにやさしく語ってくれた。しばし、戸高さんのお話を借りて、名護屋の海の状況や活動状況を紹介したい。



* * * * *

「大分の海は沢山の魚が獲れる所です。名護屋でも沢山の魚が獲れて、私達はそれを売って生活しています。けれど、随分前から磯焼けという海藻が無くなる現象が起きて、魚や貝が獲れなくなっています。この現象は日本全国でも起こっていて、日本中の漁師さんが困っています。磯焼けになると海藻が無くなります。海藻は海の生き物の棲み家や隠れ家です。海藻が減ってしまうと、魚や貝が生きられなくなります。とっても怖いことです。」

	活動組織名	名護屋地区藻場保全活動組織
	都道府県	大分県
	地域協議会	大分県藻場干潟保全地域協議会
	協定市町村	佐伯市
	構成員数	9名
	対象資源	藻場
	活動内容	母藻の設置、保護区域の設定、ウニの密度管理

「そこで、この問題を何とかしようと思い、私達は力を合わせて磯焼け対策を行っています。平成 21 年からは、名護屋小学校の皆さんにも協力してもらっています。今年で4年目です。皆さんと一緒に活動するようになって、私達はもっと頑張るようになりました。」

「ところで、去年の海藻は生えたかな。この写真は去年の9月に海の中に潜って撮影したものです。岩の上に小さな海藻が見えます。これは、みんながまいた海藻の芽です。そしてこの写真が今年の4月の様子です。一部で何者かに食べられてしまった所がありましたが、こんなに立派な藻場ができました。藻場ができたおかげで、魚達や貝やエビ達が集まってきました。でも良く見ると所々に海藻が食べられた痕があります。私達は何者がこんなことをするのか調べるため、海の中にビデオカメラを設置して、様子を調べてみました。そしたら、こんな魚が集まってきました。この魚わかりますか。海藻を食べています。ブダイといいます。大きさは約 30cm あります。頭が大きくて、何でも食べられそうな硬い歯を持っています。海藻の食べられていた所は、この魚の棲み家だったようです。だから海藻が芽を出すすぐに食べられてしまいます。」

「他にも海藻が増えた所があります。今年になって、磯焼け対策をしていない所でも、スポアバッグに取り付けたものと同じ海藻が生えていました。みんなの蒔

いた海藻の一部が流れて、そこで種を落としたのかもかもしれません。こんな風にどんどん広がっていくといいですね。時間がかかるかもしれませんが、皆さんが大人になる頃には立派な藻場が出来ているように、今年も海藻の種まきを一緒に頑張りましょう。」

* * * * *



名護屋地区藻場保全活動組織は、海藻を食害するウニ類の除去と母藻(種を持った海藻)の設置をメインに実施している。ウニ類の除去は潜水のプロである漁師たちが、母藻(オープンスポアバッグなど)の設置を名護屋小学校に協力してもらっている。大分県漁協名護屋支店の山岡支店長によると、活動区域の藻場面積は着実に拡大しており、具体的な成果を取りまとめ中とのこと。そんな実績が背景にある戸高さんの言葉には説得力がある。今後の成果を見守りたい。



* * * * *

二日目の作業はオープンスポアバッグへの海藻(ヨレモクモドキ)の取り付けと海への投入。海藻は事前に漁師の皆さんが集めておいたもので、大きな水槽にたっぷりと蓄養されていた。スポアバッグには数か所に切れ込みがあり、そこに海藻を縫うように通す仕組み。子供たちは漁師の皆さんから海藻を受け取り、思い思いの絵や標語を描いた自分のスポアバッグに取り付けていった。高学年の子はさすがに慣れたもの、低学年の子は少し戸惑っている子もいたが、全員が最後まで自分の手で取り付けた。

その後はいよいよ漁師の皆さんの船にスポアバッグを積んで出航。港から数分で活動場所の海へ到着、5年生と6年生が漁師さんの合図で次々と海藻を取り付けたスポアバッグを海に投げ込んだ。

港に戻ると漁協女性部の皆さんがお手製のお昼ご飯を用意してくれていた。カンパチのお寿司やお刺身、ハバ(ヒロメ)入りドーナツ、などなど。子供達、やっぱり一番の楽しみはこれだったようだ。

* * * * *

イベントの初日、名護屋小学校校長の河野美和子先生は児童の皆さんにこんなお話をした。

「今、名護屋の海の何が悪いのか、何が問題なのか、また、海の環境を守っていくためにはどうしたらいい

のか、そして、問題を解決していくために大人の人たちが、男の人も女の人もどんな風に協力しあっているのか、大人だけではなく、子供である皆さんが藻場を守る活動に参加している意味を、自分自身で見つけてほしいなと思います。」

名護屋小学校の皆さんには、全校をあげて海の活動に参加いただいている。漁師の皆さんの熱意はもちろんのこと、先生方と父兄の皆さんの理解があってこそ成し得ること。校長先生のお話には単に環境教育の押し付けではなく、地域社会の成り立ちを理解し、そこでの自立を求め、そして地域が子供達を支えていこうという想いが感じられる。名護屋には子供達の将来を担保する何かがある、そんな希望のようなものをこのイベントから感じる事ができた。



(JF全漁連 関根)



なぎさの レシピ

名護屋小学校の児童の皆さんに大好評♪

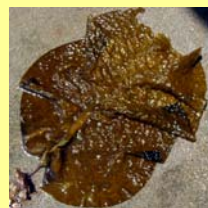
大分県漁協名護屋支店潜水部会女性部さんから教わりました！！

外はカリッ、中はもちり、甘さ控えめ“ハバ入りヘルシードーナツ”



材料(一口大 10～15 個分)

- ・ハバ(ヒロメ)ペースト状のもの・・・ 40g
- ・もめん豆腐(水切りしたもの)・・・ 80g
- ・卵・・・ 1 個
- ・むしパンミックス粉・・・ 150g
- ・揚げ油・・・ 適量
- ・粉砂糖・・・ 適量



ハバ(ヒロメ)はワカメに近い海藻ですが、普通は手に入りません。ワカメでもOKですよ。

1. 豆腐は水切りをしておく。
2. ハバは茹でて小さく切り、少量の水を加えてフードプロセッサーでペースト状にする。
3. ボールに卵と1、2を入れて、かき混ぜながらむしパンミックスを少しずつ加える。
4. 生クリーム絞り袋(又は、厚めのビニール袋の先を切ったもの)に3を入れる。
5. 160℃くらいの油に3～4cmの生地を落とし、弱火で約10分弱揚げる。
6. 火が通ったらキッチンペーパーに取り、粗熱がとれたら粉砂糖をかけて出来上がり。

ホット ニュース

食害魚対策に光明！？ ノトリスズミの効率的な漁獲方法が明らかに

各地で問題になっているブダイやイスズミ、アイゴなどの魚による海藻の食害。そんな食害魚のひとつ、ノトリスズミの研究が水産工学研究所の桑原先生を中心に、長崎県の壱岐で進められています。研究によると、ノトリスズミは水温 15 度を境に、それより高いと群れが分散傾向に、低いと蟻集して大きな群れを作る傾向にあるとのこと。そして群れは消波ブロックなどの人工構造物の隙間や周辺に形成することが多く、刺網によって効率的に捕獲できることがわかったそうです。試験では丈 9.5m、幅 115mの刺網を消波ブロックを囲うように設置したところ、多い所では 1 時間で 134 尾を捕獲でき、他の場所でも同様の結果が得られたそうです。今はその漁獲物を有効利用するため、加工・流通業者と協力して販促にも取り組んでいます。今後の進展に期待大ですね。

詳しくは、(独)水産総合研究センター 水産工学研究所 桑原久実先生(TEL:0479-44-5929)までお問い合わせください。



人工構造物に蟻集するノトリスズミ



構造物を刺網で囲って捕獲



水泳に漬ける(おいしく食べるためのポイント)



加工例(味噌漬)

環境・生態系保全対策 WEB サイト「ひとつみ jp」をリニューアル！

おしらせ



「ひとつみ jp」に新たなページ、「なぎさの生き物図鑑」と「なぎさの自由研究」が登場。

生き物図鑑は、藻場や干潟で見られる生物の写真集。海辺で見つけた生き物の名前を調べることはもちろん、自分で撮った写真を投稿することができます。投稿者のマイページができるので、どんどん投稿してください。

自由研究は小学生向けのページ。夏休みの宿題に悩んでいる君はこれで決まり！まとめ方の例ものっているから、活動グループのモニタリングにも使えるかも？こちらも作品の投稿を募集しているので、どんどん応募してください。

「なぎさの生き物図鑑」 <http://hitoumi.jp/zukan/>

「なぎさの自由研究」 <http://hitoumi.jp/kenkyu/>